

対馬暖流は暖水渦を迂回して北上 対馬暖流の流量は平年の半分 今後の沿岸水温は高めで推移

2023年5月30日～6月9日にかけて実施した日本海定期観測の結果をお知らせします。

対馬暖流は道南の遙か西方沖合から本道へ近づき、大部分は津軽海峡へ流入し、残りの部分が本道西岸を北上しています（図1c）。積丹半島沖には暖水渦があり、対馬暖流はこの渦の西方を迂回して北上しています（図1c）。

せたな沖で計算した対馬暖流の北上流量は約0.6Sv（1Sv=10⁶m³/s）で平年の半分程度となっています（6月流量の平年値は1.2Sv）。

50m深水温は7～11℃で、暖水渦の分布する海域、および道南の沖合の海域で平年よりも約2～3℃高くなっていますが、その他の海域ではほぼ平年並みです（図1a,b）。

6月上旬の余市前浜水温は「平年並み」ですが（※1）、向こう1ヶ月の気温の予報は平年よりも高くなる確率が高くなっていますので（※2）、今後、沿岸水温は平年よりも高くなることが予想されます。

※1 <https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousuion/index.html>

※2 気象庁HPより1ヶ月予報：<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/>



余市前浜水温 気象庁1ヶ月予報

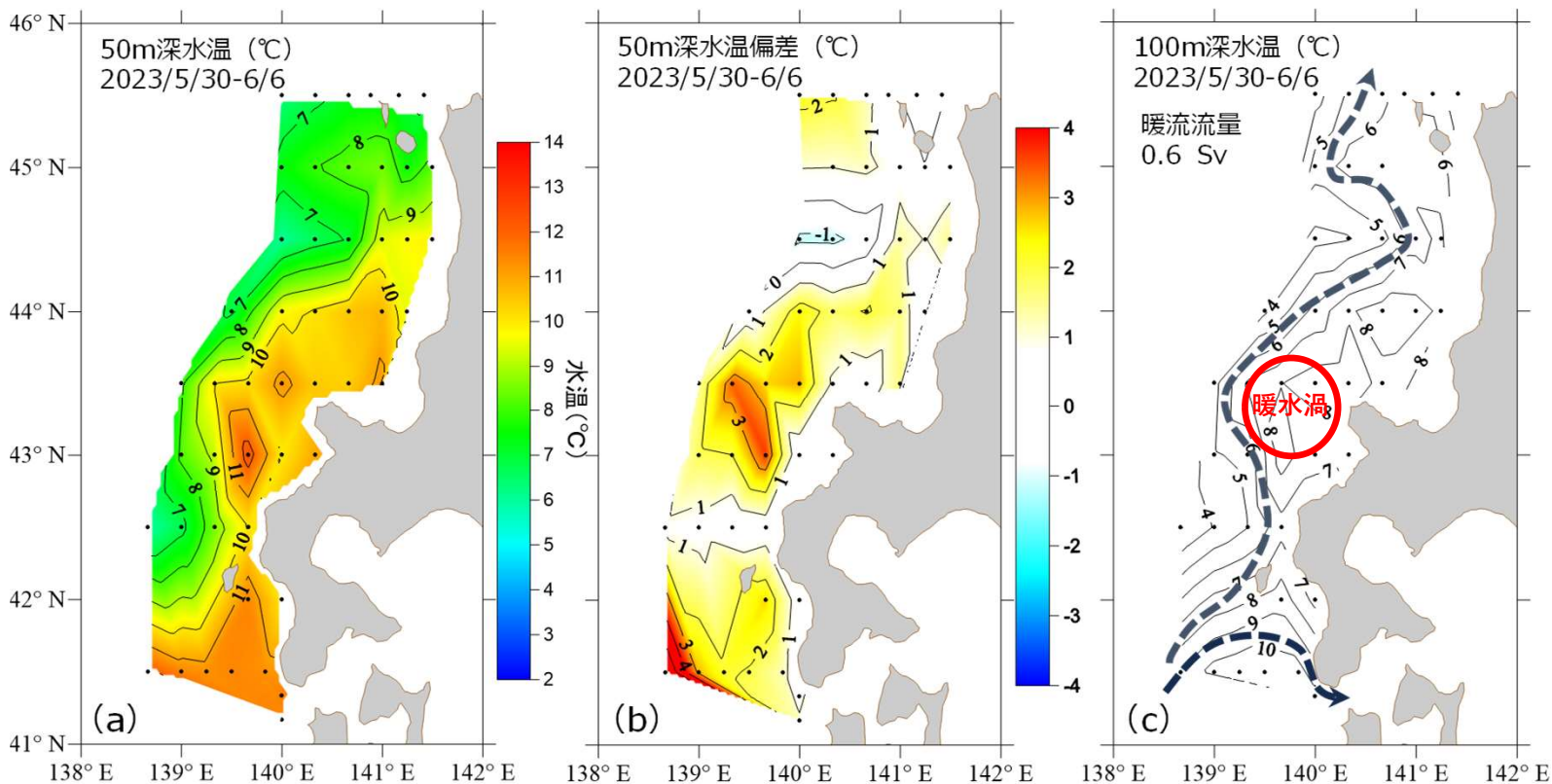


図1 2023年5月下旬～6月上旬における (a) 50m深水温 (b) 50m深水温偏差の水平分布、(c) 100m深水温の水平分布と対馬暖流の流路（矢印）。水温偏差は過去30年（1989年～2018年）の平均値から算出。流量の単位はSv（=1×10⁶m³/s）。